支援へのお礼
中国総領事館から贈り物

宮崎兄弟と孫文　受け継がれる友情の歴史

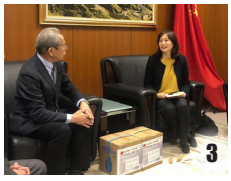
荒尾と武漢 知られざる歴史

2月7日、市は中国・武漢市に医療用プラスチック手袋2万6千枚を送りました。そのお礼に3月6日、中国総領事館から使い捨てマスク900枚、アルコール消毒液など50リットルをいただきました。

今回、なぜ荒尾市と中国との間でこのような交流がなされたのか、そのきっかけは明治時代にまでさかのぼります。

荒尾市出身で世界の自由と平等をめざして活動した宮崎兄弟。中でも宮崎滔天（みやざきとうてん）は、世界革命の第一歩としての中国革命をめざす中で、中国の革命家・孫文（そんぶん）と出会い、物心両面で支援しました。滔天の助けにより孫文は1911年に辛亥革命を成し遂げます。この革命の発端は武漢市での武昌蜂起であり、武漢市にはこの歴史的事件を伝え顕彰する「湖北辛亥革命武昌起義紀念館」「武漢辛亥革命紀念館」「武漢市中山艦博物館」があります。市はこの3館と平成24年以降、会議を通じて毎年交流を続けてきました。

こうした中での新型コロナウイルスの感染拡大。



1: 支援物資を積み込む浅田（あさだ）市長たち。物資の箱には中国語で「ともに病と戦おう。ともに困難を乗り越えよう」の文字　2: 医療用プラスチック手袋　3: 駐福岡総領事館での田上（たのうえ）副市長と康（こう）副総領事

時を越えて 受け継がれる友情

「宮崎滔天が生きていたら、必ず中国の友人たちのために出来ることをしようと奔走したはずー」。この思いから中国駐福岡総領事館の協力のもと、武漢市へ医療用プラスチック手袋を送ることが急遽決定しました。

その後、日本国内でも新型コロナウイルスの感染が拡大。今度は福岡総領事館と日本九州華僑華人青年会、九州中資企業協会の呼びかけで、マスクや消毒液が荒尾市に届けられました。物資を届けに来た康暁雷（こうぎょうらい）副総領事からは「荒尾市からのいち早い中国への支援に感動しました。一日も早い終息のため、手を携えていきましょう」と感謝のことばをいただきました。

110年ほども前に築かれた友情をもとに、荒尾市と中国はさらに絆を強くしています。かつて孫文が二度目の来荒のときに荒尾村民たちに演説した「千万年の後までも」ということばを体現した友情だと言えるでしょう。

なお、いただいたマスクは、市内小中学校の卒業式で卒業生が使用しました。

1: 左から兪（ゆ）秘書、康（こう）副総領事、房（ぼう）日本九州華僑華人青年会副会長、浅田市長　2: 宮崎兄弟の生家、「友情の梅」の前で　3: マスクと消毒液。箱には中国語で「ともに困難を乗り越えよう」の文字

編集 発行
荒尾市役所 総合政策課 広報広聴係
〒864-8686 熊本県荒尾市宮内出目390
☎0968-63-1157 FAX 0968-64-0940
kouhou@city.arao.lg.jp